

これまでも何度かこの会報に登場しているアークansas砥石について、昨年の私の収集活動の結果を報告したい。

「ハリ先は釣りの命」といえるほど私はハリ先には執着心を持っている。数少ないアタリをいかに吐き出されずに有効アタリにするかはオモリの重さとハリ先の鋭さに掛かっていると考えている。ダンゴやタニシを投げてアタリを待つブッコミ釣りの場合は、30~40号もの大きなオモリを川底につけ、魚がエサを口に入れて違和感を感じた際に首を振るなどすればその反動でハリスがピンと伸びてハリガカリするいわゆる“向こうアワセ”である。一方ウキ釣りの場合は、直径1mほどの同一ポイントへ頻繁にエサを打ち、魚を寄せて、エサを口に入れるようにするため、大オモリでドボン、ドボンと頻繁にエサを打ち込めば危険を感じて寄って来ない。3~5号程度のオモリを川底につけて静かにアタリを待つ。オモリが軽いためにエサを口に入れてもオモリも動いてしまい向こうアワセは期待できない。そのために私はハリ先が口腔のどこかに触れればその皮膚にまとわりつくように常にハリ先に神経を尖らせている。10~20分おきのエサ交換の都度、ハリ先を爪に立てて刺さるかどうか確認している。

もうここまで書いてくれば、いかに有用な砥石を集めることに私がこだわるのかがお分かりいただけることと思う。



写真① 20年も前に上州屋で¥500くらいで購入したハリ研ぎ用の砥石で粒度の異なる2種類の砥石が接着剤で張り合わせてある。上半分の茶色の部分はレンガのような焼き物？の荒砥でほとんど使用しない。下半分の白く見える部分がアークansas石で#3000以上の非常に目の細かい堆積岩であり、触るとスルスルと心地よい肌触りを感じる。ハリ先はこのアークansas砥石の方を使用して研磨する。このほかに全面アークansas石で作られた砥石も当時は¥700くらいで売られていたが小遣いの少ない私には買えなかった。いかにすばらしい砥石と言えど20数年も使っていれば当然にその表面は磨り減ってくる。そこで今回の収集活動が始まったのである。

まずインターネットで釣り用品を製造している第一精工のホームページを見てみたところ、すでにアークansas砥石は製造販売をやめ、ダイヤモンド微分を鉄板に蒸着させたような砥石に替わっていた。上州屋で手にとって見てみたが表面の目が粗く、買う気になれない。

同じくインターネットでアーカンサス砥石が渋谷の東急ハンズで売られていることを知り、早速出張の際に立ち寄った。製図用品売り場であった。アーカンサス砥石は、かつて製図用具のカラス口という図面に墨入れする際に使用する筆記具のペン先を研ぐのにも使われていたことを知った。店員さんに聞くと「もう残りが3個しかない」と言いながら、写真②と同じような大きさ（タテ25 x ヨコ50 x 高さ5mm）の砥石を出してきた。確かにアーカンサスであった。表面がしっとりすべすべして上物である。しかし、値段を聞いて腹が立った。¥3000である。¥3000の値札が貼られているので間違いはないのだが、こちらの足元を見透かされているかのように買う気にはなれなかった。また、厚みが5mmでハリのフトコロ部分からハリ先の内側を研ぐのに研ぎずらそうにも思えた。

⑤ 番号の順序が後先になるがお許し願いたい。何としてもアーカンサスに夜毎うなされている私はインターネットでサージカルオイルストーンという黒っぽい砥石を買った。これもアーカンサス石には違いないのだが、表面がザラザラしていて、やはりハリ先を研いで顕微鏡で見るとハリの表面に縞模様があり、ハリ先も甘くNG。サージカルというから外科医が手術用メスを研ぐのに使用するようなすばらしいものと勝手に想像していた。¥2800が無駄となった。

② 自宅近くの上三川インターパークにある大型ホームセンタ“ジョイフル山新”の製図用品売り場で¥320で“オイルストーン スタンダード2型”を買った。帰宅して早速ハリ先を研いでみたところ、粗くて研いだハリの表面がザラザラの縞模様になっているのが顕微鏡で見てもわかった。毎日使うご飯茶碗の糸尻と同じくらいの粗さである。使い物にならない。NG

③ また東京出張があったので今度は新宿の東急ハンズに行った。期待した砥石は無かった。さらに足を延ばして帰り道の池袋東急ハンズに立ち寄った。かなりベテランそうな年配の店員さんに状況を話したら、ポケットオイルストーン（¥305）でサージカルアーカンサスの表面をこすり合わせれば#800の目が#3000になるからといわれ、目からウロコが落ちる思いで帰宅して試したところ、双方の砥石の表面はツルツルになったが、ハリ先を当ててもツルツルで研磨すると言う状態にはならなかった。これもNG。

④ ますます砥石探しに熱が入り治まらない。インターパークのジョイフル山新で厚さ約4mmという薄く粘板岩を削った砥石を見つけ購入。¥120だったか？ハリ先を逆なでするように砥石の表面に当てるとグサグサと砥石の表面に刺さってしまうような感じであった。やはり粘板岩の砥石は包丁やノミのような切削面を研ぐのには向いていてもハリ先のような鋭利な先端を研ぐのには向いていないことがわかった。NGである。

⑥ さらにインターネットを見ていたらまたまたあらたなアーカンサスを見つけた。解説をみると乳白色で#3000とある。送料込みで¥2500。厚みが10mmと気になったがとりあえず買っておくことにした。手にしてみると表面はしっとりすべすべ、上質のアーカンサスである。①と変わらない。OKといたいのだが、やはり厚くハリ先の内側を研ぐことができない。どこかこの石を2等分もしくは4等分にできるところはないものかと、またネット検索したが、ワンカット¥2000では手が出ない。機会が来るまでしばし温存することにした。ややNG。

⑦ 行きつけの歯医者に定期点検に行った際、ふと歯石を除去するスクレーパーが気になり、何で研ぐのか聞いてみた。これですよと見せてくれたのがこの⑦と同じものであった。タテ50mm x ヨコ80mmとデカイ。研ぎやすいように断面が斜めになっていて厚い方は10mm、薄い方は3mm。さすがプロ用である。これならハリのフトコロにも当てられる。¥4000。在庫を問屋に聞いてもらうことにした。2週間後、私が忘れた頃に先生が「ハイ、これ」と新品を見せてくれた。「¥3800だけどどうする？」と聞かれ、早速その場で購入した。今はもっぱらこの砥石を使っている。①や⑥ほどの目の細かさでは無いが実用的に問題ない。自宅から歩ける距離の近所に探していたアーカンサス砥石があったとは、何か“チルチルミチルの青い鳥”の物語のような気分であった。これでもう一生砥石で悩まされることは無くなった。感謝。

もしこの砥石を希望される会員がいたらご連絡ください。まだ在庫があるそうですので取り次ぎます。なお、製造販売元は、埼玉県東松山市今泉28 (株)YDM 0493-24-3388です。品番 13032 アーカンサス砥石 6AS